

# みんなの声

## ■祝祭日のごみの収集は

上浦幌地区の者ですが、燃やせるごみの収集日が祝日だったので翌週に出しましたが、収集されませんでした。日程表には『祝祭日の場合は翌週の収集になります』と書かれています。

一般家庭から出していただくごみの収集体制については、本年4月から収集地区を町内全域、月曜日から金曜日の収集とし、「燃やせるごみ」は週1回(地区により2週間から4週間に1回)、「燃やせないごみ」は月2回(地区により月1回)の収集を行っているところです。

祝祭日にあたる場合は、『次回の収集日』に収集します。つまり、毎週収集されている地域は翌週の収集になりますが、2週間ごと、4週間ごとの収集地域では2週間後、翌月の収集となります。

しかしパンフレットには、収集日が祝祭日の場合翌週の収集となる旨記載されており、一部の収集地区においては、翌週にごみを排出しても収集されないなど多大なご迷惑をおかけしました。

ごみの排出量や効果的な収集・運搬経路等を総合的に見極めながら、このような事態を解消するように検討していきたいと考えています。

(町民課生活環境係)

## 俳句 ことぶき俳句会

セーラー服似合いし日あり鹿の子百合 大山さよ子  
 ただいまと六月の風を部屋に入れ 越坂 順子  
 初蟬のじいじ坂を上りゆく 徳地はつ子  
 冷麵をもとめて来しが寒き日々 橋本 葉子  
 親族がふえて六月晴れており 福澤 米子  
 葉桜や老舗をたたみ長かりし 福原 仁子  
 血圧の変動六月の診療所 宮部あき子  
 教室の二列目にいたさくらの実 高橋 悦子

## 川柳 浦幌川柳会

課題吟 背  
 改革の破魔矢が蟻の背に刺さる 竹村 鮮明  
 見栄つ張り背負いし荷物愚痴となり 星 愛子  
 帰り道影が並んで背くらべ 加藤 未貴  
 運命の益々丸い背な愛し 橋本 葉子  
 背伸びせず人生の暦読んで待つ 阿部 麗紅  
 あれあれと言うまに孫に背を越され 山村 幹雄

## 川柳 上浦幌句の会

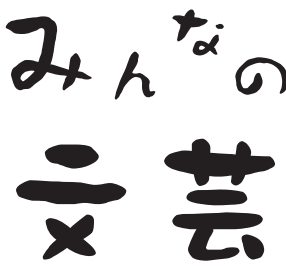
自由吟  
 春なのに雪をながめ句を考える 山田 ナツ  
 変な日本人英語必修化で更に増え 大西 功  
 白い皿祖母のキャンバス四季の彩 山田エツ子

過去背負いこぼれた夢の数え唄 白木二十重

## 短歌 浦幌短歌会

草刈りだ牧草機械持ち出して器具修理手ぐすねを引く 米司 好美  
 ふつくらと花豆鍋に落着きて誰に食べさせるといふにあらねど 福澤 米子  
 人の世にちがふ命に生まれたる鴉がついばむ生ごみ芥 高橋 悦子  
 木々を埋め卯月四日の雪景色昼月あわく浮かびていたり 山崎 阿己  
 十五年で活動閉じたロマン村解散総会全員集う 長谷川アキ  
 皺ばみて枝離れざりし木瓜の実の腐蝕も褪せて雨に降らるる 山口 恵子  
 夢おいて行ったり来たり迷い道心とざして逃避行ばかり 星 愛子  
 円山はここからが一番麗わしと四季ごとに佇ち描きたしおもう 柴田 弘子  
 日本語は忘れても今両親の墓前に佇ちぬ元日本兵 後藤 年子

春日和おりボン付けて犬散歩 福田すま子  
 捨てきれずリフォームしている貧乏性 芳川 乙美  
 ハウスにもトマト花咲き弾む足 広瀬マサヨ  
 幼な子は何時眺めても笑みが湧き 朝日ヒロエ  
 春を待つ窓辺の花が咲きはじめ 笹島カヨ子  
 トリノ金共に漂う春息吹 経堂 ハナ  
 忘れずに今年も来たか夫婦鳥 河村みよ子



## INFORMATION

### 人のうごき

平成 18 年 5 月 31 日現在

- 人口 / 6,242 人 (- 11 人)
- 男 / 3,021 人 (- 2 人)
- 女 / 3,221 人 (- 9 人)
- 世帯数 / 2,512 戸 (- 4)
- 出生 3 人    ○転入 12 人
- 死亡 5 人    ○転出 21 人
- 1 年前の人口 6,424 人
- ( ) 内は前月比

### 交通事故発生状況

平成 18 年 5 月 31 日現在

- 発生 6 件 (前年比 + 2 件)
- 死者 0 人 (前年比 - 2 件)
- 傷者 11 人 (前年比 + 8 件)
- 事故死者ゼロ日数 222 日

### 消費生活相談

平成 18 年 7 月

浦幌消費者協会では悪質商法など、消費生活にかかわることについての相談を実施しています。

- 4 日 (火)・18 日 (火)
- 10 時～12 時、13 時～15 時
- 浦幌中央公民館
- 1 階小会議室 (内 750)

### 日曜救急当番医院

平成 18 年 7 月

診療時間は 10 時から 16 時までです。

急患に限ります。

- 2 日、16 日
- 多田医院
- 9 日、23 日、30 日
- 町立診療所

※都合により当番医は変更になる場合があります。

## COLUMN

私たちが性を語るうたとするとき、なんとなくうしろめたいような、恥ずかしいような気分になるのは、「教育」のなせるワザです。小さい頃から、気づかないうちに「性は忌むべきもの」「汚らわしいもの」というイメージを、親や周囲の大人から肌で感じ取り、すっかり自分の中へ取り込んでしまった結果なのです。

しかし、本来セックスは、愛を交歓し生命を創りだす崇高な行為。人間の美しい自然な営みです。

それなのに、性に関するところに、大人があまりにも敏感に反応するため、子どもたちは性の歪んだイメージを受け継いでしまう、と、カナダの有名な性教育家・メグ・ヒックリングさんは指摘しています。だから、私たち世代は、性の古いイメージを覆し、次の世代に新しいイメージを伝える必要がある、と。

### 子育てコラム

本来セックスは、人間の美しい自然な営みです。私たち世代は、性の古いイメージを覆し、次の世代に新しいイメージを伝える必要があるのです。

そのためには、たとえば、

「ウンチ」「オシッコ」「オチンチン」と連呼したがる乳幼児に、あまり目くじらを立てないでよくとか、  
「赤ちゃんはどうやって生まれるの？」

という小学生に、あっさり、はっきり答えるとか、大人側の新しい対応が求められます (詳しくは、メグ・ヒックリング著「メグさんの性教育読本」発行ビデオドック発売木屋社をご覧ください)。

なかでも思春期の男の子には、同性の先輩である父親や身近な男性のアドバイスが不可欠です。初めて夢精した時、

## 男だって子育て！ その③ 男の性教育

1988 年立教大学卒。雑誌記者を経て結婚。3 人の子どもを育てながら子育て支援を独学。カナダ・ライオンズ大学レイモンド・チャン・スクール家庭支援職資格認定課程を通信教育で修了。2003 年より日本で最初 & 唯一のファミリーライフエドゥケーターとして活動中。

■ホームページ <http://homepage3.nifty.com/mami-file/index.htm>

columnist

林 真未 (はやし・まみ)



「もうすぐ白いもんがチンチンから出るかもしれないけれど心配するな！ お父さんもそうだった。男なら必ず通る道だ」とあらかじめ言われていたら、どんなに安心なことでしょう。

繰り返す勃起を、  
「元気の証拠！ それでいいんだ！」  
と笑い飛ばしてもらえたら、また、自慰行為を、  
「どんどんやれ！ そんなもん溜めていたってしょうがない」と認めてもらえたら、思春期の男の子の人生は、どんなに明るく照らされることでしょう。

こうして、性から罪悪感を取り除くことで、逆に、性犯罪抑止や性的虐待の早期発見が期待できるとも言われています。